

雜 報

會 員 動 靜

敘勳三等授瑞寶章	正六位勳四等	奧 宮 松 枝
敘勳四等授瑞寶章	正五位	好 本 節
		(九月二十七日)
敘從五位	正六位勳四等	難 波 秀 太 郎
		(十月一日)
	陸軍一等軍醫	白 玖 壽 雄
	陸軍一等軍醫	丸 川 千 基
	陸軍一等軍醫	山 中 茂
	陸軍一等軍醫	大 內 健 太 郎
	陸軍二等軍醫	後 藤 英 明
	陸軍二等軍醫	大 橋 要 人
	陸軍二等軍醫	西 村 英 二
	陸軍二等軍醫	小 出 宗 次
	陸軍二等軍醫	明 渡 侃 治
賜一等給	陸軍一等軍醫	中 村 慶 藏
	陸軍一等軍醫	滋 野 井 至 孝
賜二等給		(九月三十日)
免本職	吳海兵團附海軍軍醫大尉	吉 栖 生 一
待命被仰付 <small>但吳=滯在スヘシ</small>		(十月一日)
任金澤醫科大學助教授	金澤醫科大學助手	松 本 武 一 郎
敘高等官七等		(十月四日)

	金澤醫科大學助教授	松本武一郎	
本俸十二級俸下賜			(十月六日)
職務俸金貳百圓下賜			
敘正六位	從六等勳五等	矢澤弘水	(十月一日)
	東北帝國大學助手	皆見省吾	
任岡山醫科大學教授			(十月八日)
敘高等官六等	岡山醫科大學教授	皆見省吾	
本俸八級俸下賜			(十月九日)
職務俸金千五百圓下賜	文部省學校衛生官	大西永次郎	(十月九日)
愛知縣へ出張ヲ命ス	岡山醫科大學教授從五位	生沼曹六	(十月十六日)
陞敘高等官二等		戸田茂	(十月十五日)
敘正八位	臺灣總督府醫院醫長	森滋太郎	
四級俸下賜	臺灣總督府醫院醫長	近藤喜一	(九月三十日)
五級俸下賜	正五位勳四等	吉田坦藏	(十月一日)
臺北州協議會員ヲ命ス			

○高橋義藏君 は一昨年研究の爲め渡歐し瑞西、獨逸國等に於て研究し本月十三日無事歸朝せられたり

○山下成六君 は豫て神戸市に開業し居られしが今般同地の開業を休止し岡山醫科大學助手を命せられ細菌學教室に勤務せられたり

○上田正治郎君 は今般廣島縣安藝郡音戸町音戸醫院に於て診療に従事せられたり

○香川博保君 は今般大阪市市岡町に移轉開業せられたり

○永井萬龜雄君 は今般廣島縣佐伯郡大野浦驛前に移轉開業せられたり

- 松原角一君(舊姓四宮) は今般當市武藤醫院を辭し北里研究所に於て研究に従事せられたり
- 佐藤鳴海君 は今般大阪市北區西野田今開町一丁目首藤病院に轉せられたり
- 柴田潤一君 は今般縣立松江病院を辭し岡山醫科大學附屬醫院精神科に勤務せられたり
- 戸出軍兵君 は豫て京都帝國大學醫學部島園内科教室に勤務し居られしが今般同博士東京帝國大學醫學部に榮轉せられしを以て東京帝國大學醫學部附屬醫院島園内科に轉勤せられたり
- 荒木豐吉君 は今般千葉醫科大學より東京帝國大學醫學部に派遣せられ法醫學教室に於て三田教授指導の下にて研究に従事せられたり

○守屋愛吾君逝く 君は大正二年岡山醫學專門學校を卒業し郷里本縣小田郡大井村に於て開業し居られしが先般病を以て遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へず

●學位授與決定 皆見省吾君は論文を東京帝國大學醫學部に提出し醫學博士の學位を請求し居られしが去月二十九日の教授會議に於て學位を授與すべきものと決定したり其主論文は左の如し

所謂皮脂腺腫 = 就テ

●アショップ教授講演會 既報の如く岡山醫科大學に於ける獨逸フライブルヒ大學教授ルードウィヒ・アショップ博士の講演會は九月二十九日開會の筈なりしが支那動亂の爲め豫定の變更ありて本月三日午後二時より同大學大講堂に於て開會せり其講演大意は左の如し

肺臟細葉 = 就テ殊 = 其肺臟病理 = 對スル意義

凡ての他の腺に於ける如く肺臟に於ても分泌性實質、潤管部及び導管部を區別するを要す。

導管部 (Ausführungsgang) は氣管、大小氣管枝及分枝より成る、氣管枝を分類するに當りては之を葉性 (lobär), 次葉性 (sublobär), 小葉性 (lobulär), 及び次小葉性 (sublobulär) に區分するを最良の方法とす、而して所謂末梢小氣管枝

は次小葉性氣管枝の最終の分枝に相當す、是等の「真正」の氣管枝は何れの部位に於ても常に顛毛上皮を以て覆はれ呼吸性上皮を有せず、且是等の各枝の層壁には滑平筋及び彈力纖維の存在するあり、大なる氣管乃至氣管枝は更に粘液腺及び軟骨を含有す、導管の作用は(一)空氣の輸送(二)侵入せる生活性及び非生活性異物の排除及び(三)肺臓の固著器たるにありて是等の三種の作用は何れも病的及び老年性障碍又は病變を呈することあり。

潤管 (Schaltstück) は呼吸性小氣管枝より成る、此部に關する從來の記載には多くの矛盾あり、近年の研究は レシユク・フルテン・ベルチンベルガー氏 等により行はれたり、此部に特有なるは呼吸性上皮即ち一層適切なる語を以てせば肺胞の漸次出現する事實なり、顛毛上皮は此部に於ては漸次圓柱細胞により補填さる、管壁に於ては其一側に偏して著明なる變化を來し肺胞の發生を見る、呼吸性小氣管枝は其分岐の程度により更に之を第一、第二、第三次に區別し得、氣胞の數は第一次より第三次に至るに従ひ増加す即ち第一次呼吸性小氣管枝には其數僅少にして第三次部には其數多し。呼吸性小氣管枝の作用は狹義に於ける呼吸系と導管との關係を保つことにして(一)氣流に對し器械的に作用し(二)一種の芥取りとして空氣を清淨にし更に(三)一程度迄は呼吸に參與す。病的には此部は最も重要な部分なり、何となれば殆ど凡ての傳染性疾患は此部に最初限局するを以てなり、例合ば肺炎及び肺結核の場合に於ける如し、戦後の研究により嚙下性肺炎に比して「チフス」肺炎の特有なれるを知れる如き亦興味多し、又是等の潤管は滲出性肺炎の組織化(瓦斯中毒の場合の如し)及び閉塞性氣管枝炎に於ても大に意義あり。

肺臓の第三部位即ち分泌性實質は肺固有の呼吸系なり、一個の呼吸性小氣管枝と之に附屬する分枝及び氣胞群を細葉 (Azinus) と稱す、此の細葉の肺胞組織は氣胞道よりなり、氣胞道自身は第三次小氣管枝より各三箇づつ發生するを通常とす、氣胞道は全然氣胞組織より成り、各氣胞間の所謂柱部 (Pfeiler) には多量の滑平筋纖維を含有す、氣胞道の末端は氣胞囊を形成し、此部には筋纖維を缺如す、氣胞を被ふ細胞は凡て呼吸性細胞なり。氣胞組織の作用は(一)呼吸(二)氣流を器械的に影響すること(三)空氣中の異物を排除することなり、此第三の作用は炭末に對して生理的に行はる (塵芥細胞の由來)。

病的には炎症時に屢々氣胞道及び氣胞囊間に著明の差異を認む、例合ば前

者の充満及び後者の無氣の如し，細葉性結節性結核の際には無氣性硬變を見，普通の肺炎時にも屢々氣胞囊の無氣を現出す。

最後に肺細葉に關する綜合的觀察を以て演を終る。

●解剖祭 岡山醫科大學に於ては本月二十九日午前十時より市内小橋町國清寺に於て解剖祭を執行せり例により一同着席するや僧侶の讀經あり次に藤田學長の祭文，學生總代鈴木鐸郎君の祭文朗讀あり次に學長，上坂，田村兩教授，學生總代，來賓及び各遺族の燒香ありて式を終り別室に於て茶菓の饗應ありて正午一同退散せり